



株式会社 UACJ

2024 年 3 月期 第 3 四半期決算説明会

2024 年 2 月 8 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 UACJ
[企業 ID]	5741
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2024 年 3 月期 第 3 四半期決算説明会
[決算期]	2024 年度 第 3 四半期
[日程]	2024 年 2 月 8 日
[ページ数]	38
[時間]	15:30 – 16:24 (合計：54 分、登壇：21 分、質疑応答：33 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	6 名 代表取締役 社長執行役員 石原 美幸 (以下、石原) 取締役 副社長執行役員 川島 輝夫 (以下、川島)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



取締役 常務執行役員 サステナビリティ推進本部長 板事業本部副本部長
(製造部門) 田中 信二 (以下、田中)
取締役 執行役員 経営戦略本部長 隈元 穰治 (以下、隈元)
執行役員 財務本部長 飯田 晴央 (以下、飯田)
財務本部 IR 部長 上田 薫 (以下、上田)

[アナリスト名]* SMBC 日興証券 山口 敦
モルガン・スタンレーMUFG 証券 白川 祐
野村證券 松本 裕司
大和証券 尾崎 慎一郎
UBS 証券 五老 晴信
SBI 証券 柴田 竜之介

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

上田：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。本日は大変お忙しい中、株式会社 UACJ、2023 年度第 3 四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。この説明会は、株式会社 UACJ のホームページに掲載しております説明資料を使って行います。お手元に資料をご用意されていない方がいらっしゃいましたら、お手数ですがホームページをご覧ください。

なお、この説明会では将来予測を含む情報が提供されることがありますが、これらの情報は当社の現時点での予測に過ぎません。さまざまな要因により実際に業績がこれら将来予測と大きく異なる場合がありますので、ご注意ください。

説明会開始にあたり、ご参加の皆様にお願いがございます。ハウリング等防止のため、指定があるまでは音声をミュートにしてご参加ください。また、質疑応答のスムーズな進行のため、Zoom 上でのご自身の表示名を御社名とお名前の組み合わせにご変更くださいますよう、ご協力をお願いいたします。

では、本日の当社出席者をご紹介します。代表取締役社長執行役員、石原美幸です。

石原：石原です。今日はよろしくお願いします。

上田：取締役副社長執行役員、川島輝夫です。

川島：川島です。よろしくお願いいたします。

上田：取締役常務執行役員、田中信二です。

田中：田中です。よろしくお願いします。

上田：取締役執行役員経営戦略本部長、隈元穰治です。

隈元：隈元です。よろしくお願いいたします。

上田：執行役員財務本部長、飯田晴央です。

飯田：飯田です。よろしくお願いします。

上田：私は、本日司会を務めます、財務本部 IR 部長、上田薫でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



それでは、本日発表いたしました 2023 年度第 3 四半期業績につきまして、財務本部長の飯田よりご説明させていただきます。プレゼンテーション資料をご覧くださいながらご参加ください。飯田本部長、よろしくお願いいたします。

発表のポイント

3Qも事業利益*1は前年同期*2を上回って着地
販売数量見通しの増加と製造コスト削減施策の結実により、**事業利益見通しを上方修正**

■ 3Q累計総括 事業利益 333億円（前年同期比 +144億円）

1

- ✓ 国内：エネルギー・添加金属高騰分を製品価格に反映するサーチャージ制価格体系導入効果に加え、構造改革効果の継続によって利益を確保でき、事業環境が厳しい中でも増益
- ✓ 海外：TAA*3の収益拡大とUWH*4の収益改善により、増益

■ 通期業績見通し 事業利益 400億円（上方修正 +20億円）

2

- ✓ 事業環境が期初想定より厳しい中での着実な事業進捗およびTAAの販売数量見通しの増加、各製造所における製造コスト削減施策の結実により、**通期の事業利益を400億円に上方修正**

*1 事業利益 持続的な事業活動の成果。営業利益から、棚卸資産影響、一時的・特殊な重要性のある損益を控除したもの
*2 2022年度3Q累計のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります
*3 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc. *4 UWH : UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

© UACJ Corporation. All rights reserved.

1

飯田：はい。まず 1 ページ、ここに発表のポイントをまとめてございます。

赤字部分、上期に続きまして 3 クォーターも事業利益は前年同期を上回って着地しております。さらに、年間の事業利益見通しを上方修正いたしました。

1 番、3 クォーター累計でございますが、事業利益は 333 億円、前年同期比プラス 144 億円でございます。要因は上期と同様でございます。

2 番、通期の見通し。事業利益 400 億円、上方修正 20 億円いたします。こちらは北米の缶材につきまして底打ち感が出てきたところで、数量の見直しを行った結果でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



目次

1. 2023年度 第3四半期業績
2. 2023年度 業績見通し
3. 企業価値向上に向けた 資本効率経営の取り組み
4. サステナビリティへの取り組み
5. ご参考データ

© UACJ Corporation. All rights reserved.

2

2 ページ目。本日は、1 から 4 の項目にわたってご説明申し上げます。

1. 2023年度 第3四半期業績 業績 サマリー

事業利益 333億円(前年同期*1比 +144億円)
営業利益 222億円(前年同期比 +112億円)

■ 数量：877千トン 前年同期*2比 Δ136千トン

- ・ 缶材：北米における在庫調整の影響で販売量が減少するも、在庫調整の影響は底打ちのきざし
- ・ 自動車関連：生産の回復に伴い、着実な販売が継続
- ・ 厚板：半導体製造装置向け厚板の在庫調整局面の影響を受ける

■ 事業利益：前年同期比 +144億円

◎増益要因

- ・ 国内事業の損益好転
(製造コスト改善、価格改定効果、エネルギー価格、添加金属等の高騰分価格転嫁 等)
- ・ TAAの増益
(品種構成の良化、エネルギー価格・添加金属等の高騰分価格転嫁 等)
- ・ UWHの収益改善

△減益要因

- ・ UATH*3の業績悪化
(北米・東南アジア缶材需要の一時的な鈍化による販売量減少)

*1 2022年度3Q累計のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

*2 会計期間の変更に伴い、実績値を組み換えています

*3 UATH：UACJ (Thailand) Co., Ltd.

© UACJ Corporation. All rights reserved.

4

1 番、第 3 四半期業績でございます。4 ページにサマリーがございますが、内容は後ろのページでここにご説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



5

1. 2023年度 第3四半期業績
第3四半期 業績

(単位: 億円)

	2022年度 3Q累計 ^{*1} (A)	2023年度 3Q累計 (B)	増 減 (B) - (A)
売上収益	7,408	6,603	△ 805
事業利益	189	333	144
棚卸資産影響等	△ 79	△ 111	△ 32
営業利益	110	222	112
親会社の所有者に 帰属する当期利益	24	68	44
事業利益をベースとした 1株あたり当期利益 (円 / 株)	159	294	135
Adjusted EBITDA ^{*2}	449	605	156

^{*1} 2022年度3Q累計のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります
国際会計基準(IFRS)の適用にあわせ、UATHを含む一部グループ会社の会計期間を12月決算から3月決算に変更しております

^{*2} Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響等

© UACJ Corporation. All rights reserved.

5

5 ページ、第 3 四半期の PL でございます。

売上収益 6,603 億円、前年同期比 805 億円の減収となっております。このうち、アルミ市況の影響は 400 億ほど減で効いております。

事業利益は 333 億円で、対前年同期比 144 億円の増益でございます。これについては後ほどまたご説明申し上げます。

棚卸資産影響等がマイナス 111 億円、前年から 32 億円さらに悪化しております。これは 22 年の 4 月をピークにアルミ市況が下がり基調が継続しておりますので、棚卸資産影響としてはマイナスで出てございます。

事業利益と棚卸資産影響とを合わせました営業利益が 222 億円、対前年から 112 億の増益でございます。

親会社の所有者に帰属する当期利益は 68 億円、44 億円の増益でございます。

営業利益と当期利益の間に金融収支がございますが、金融収支が対前年で 40 億円悪化しております。こちらは北米の金利上昇によるものでございます。

事業利益をベースとした 1 株あたり当期利益、および Adjusted EBITDA、ともに対前年から好転しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



1. 2023年度 第3四半期業績

セグメント別 売上収益・営業利益

(単位:億円)

	2022年度 3Q累計*		2023年度 3Q累計		増減	
	(A)		(B)		(B) - (A)	
	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益
アルミ圧延品	6,526	144	5,696	271	△ 830	127
加工品・関連事業	1,556	13	1,579	35	23	22
(調整額)	△ 675	△ 47	△ 673	△ 85	2	△ 38
合計	7,408	110	6,603	222	△ 805	112

© UACJ Corporation. All rights reserved. * 2022年度3Q累計のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

6

続きまして6ページ。セグメントでございますが、加工品・関連事業のところにUWHの改善分が入っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2022年度 3Q累計 ^{*1} (A)	2023年度 3Q累計 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材 ^{*2}	666	576	△ 90
箔 地	35	34	△ 1
I T 材	5	6	1
自動車材	91	107	16
厚 板	41	24	△ 17
その他一般材	174	130	△ 44
合 計	1,013 国内市場向け 357 海外市場向け 656	877 国内市場向け 355 海外市場向け 522	△ 136 国内市場向け △ 2 海外市場向け △ 134

*1 会計期間の変更に伴い、実績値を組み換えています

©UMCJ Corporation. All rights reserved. *2 内部取引控除後の数量

7

7 ページ、アルミ板の品種別売上数量でございます。

当3クォーター累計で87万7,000トン、対前年からは13万6,000トンの減でございます。下に書いてございますように、海外市場向けが顕著に減っております。

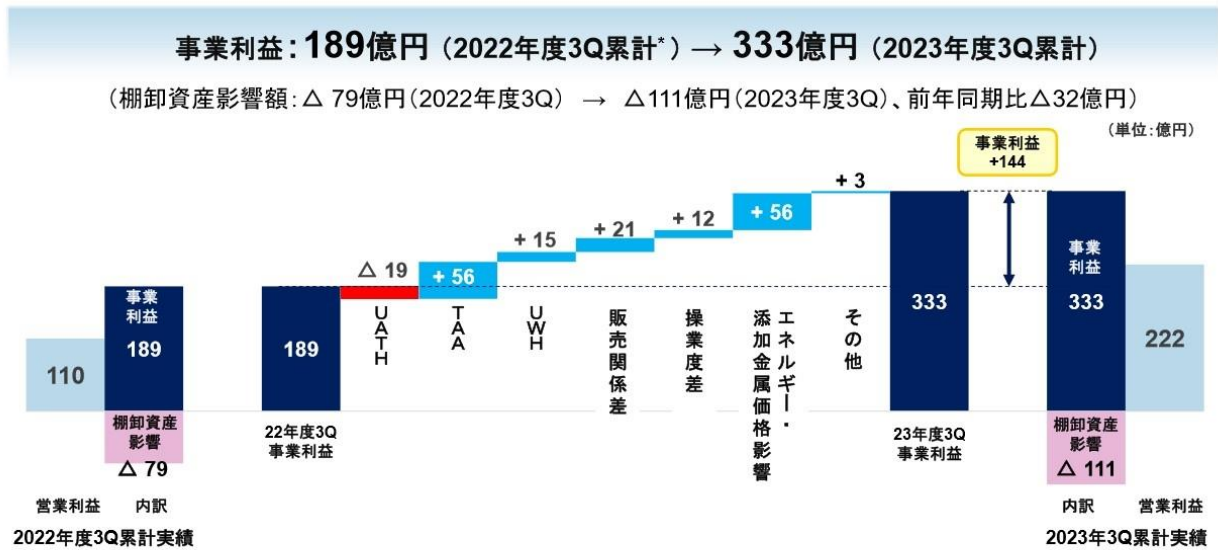
品種別には、缶材が9万トンの減、このうち北米市場で約半分強、約5万トン弱の減となっております。箔地、ITにつきましては、低迷が続いている状況。自動車材につきましては、OEMの生産回復に伴い、パネル材で増加してございます。厚板も低迷が続いてございます。

その他一般材のマイナスは大きく出てございますが、上期にもご説明して申し上げておりますが、TAAの半製品の影響が大きく出ておりまして、損益的な影響はあまりございません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

事業利益分析 (2022年度3Q累計 → 2023年度3Q累計)



8 ページ、事業利益の推移につきましてご説明いたします。

前年が 189 億円、当期 333 億円で、144 億円の増益でございます。

棒グラフになってございますが、UATH マイナス 19、TAA プラス 56、UWH プラス 15。海外 3 社につきましてはまた別のページで申し上げますが、UATH は数量減の影響が大きく出ております。TAA も数量減でございますが、その他でカバーしております。また、為替の円安の影響がプラス 10 億ほど入ってございます。UWH は、売上の増に伴い、損益が改善してございます。

販売関係差プラス 21、数量減ではございますが、価格改定でカバーしてございます。また、板以外の事業、押出、箔、加工品、鋳鍛等で、少しずつ改善が実現できております。

操業度差も同様に、押出し、箔で、改善が見られております。

損益インパクトが大きいのはその次のエネルギー・添加金属価格の影響でございまして、去年のコストアップ分でマイナスでございましたが、今年はそれを価格転嫁してございますので、去年のマイナスと今年のプラスで差し引き、大きなプラスを計上できているということでございます。

損益改善の要因は以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結貸借対照表

期末に向けて棚卸資産削減を推進

連結貸借対照表

(単位:億円)	23/3末* (A)	23/12末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び現金同等	234	354	120
営業債権及びその他の債権	1,590	1,728	138
棚卸資産	2,287	2,144	△ 142
その他の流動資産	266	247	△ 19
有形固定資産	3,657	3,742	85
その他の非流動資産	924	968	44
資産合計	8,957	9,183	226
営業債務及びその他の債務	1,394	1,336	△ 58
借入金	3,404	3,497	93
その他	1,480	1,520	40
親会社の所有者に帰属する持分合計	2,465	2,605	140
非支配持分	215	225	11
負債及び資本合計	8,957	9,183	226

資金運用表

	使用	調達
長期 資金	設備投資等	268
	法人税等支払	20
	長期資金余剰	119
短期 資金		70
		短期資金余剰
	長期資金余剰	119億円
	短期資金余剰	70億円
	フリーキャッシュフロー	189億円

©UMCJ Corporation. All rights reserved. * 2023年3月末のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

9

9 ページがバランスシートでございます。

総資産 9,183 億円で、3 月末から 226 億円の増加となっております。このうち為替の影響がプラス 300 億円ありますので、実質的には資産は減らしておるところでございます。

大きく減らしているのは、棚卸資産で 142 億円減らしてございます。上期までは販売減に伴い在庫が膨れがちでございましたが、販売減に合わせて在庫をコントロールした結果、23 年 3 月末から減ってございます。

それ以外、大きい項目で、現金が 120 億増えてございますが、これは 12 月末が期末休日だったという要因でございます。

借入金が 93 億円増えてございますが、これは今申し上げました現金および現金同等が増えていることと、為替の影響で増えているということでございます。

同じページの右側で、キャッシュの状況についてご説明いたします。

税引前利益、減価償却費および棚卸の削減等で、キャッシュを創出してございます。

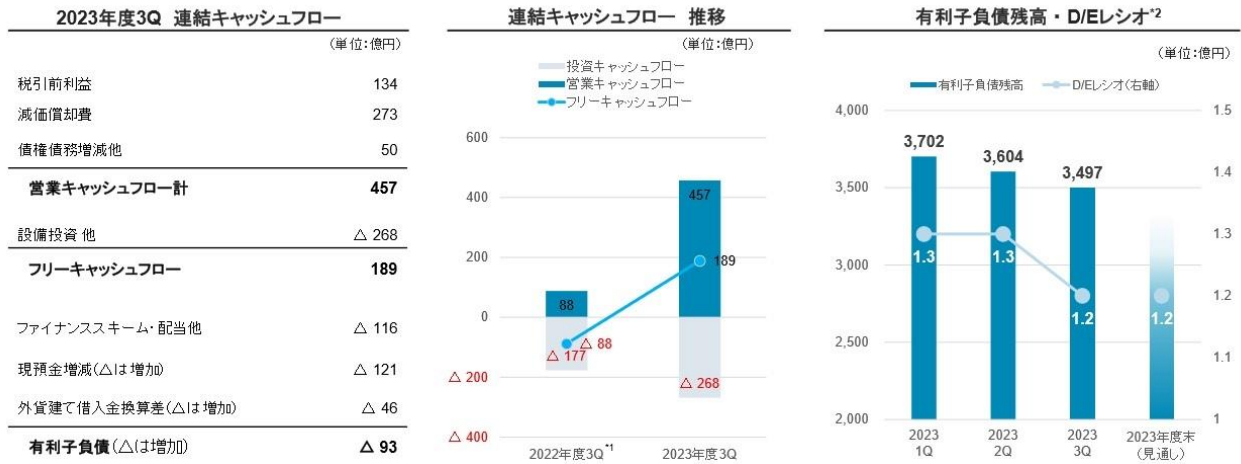
設備投資等を 268 億行っておりますが、差し引きでフリーキャッシュフロー 189 億を創出してございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結キャッシュフロー計算書

有利子負債残高の水準を下げ、2023年度末のD/Eレシオ目標1.2を堅持する



*1 2022年度3QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

*2 D/Eレシオは劣後ローンの資本性を考慮

10

続いて10ページ。真ん中の棒グラフでございますが、今申し上げたことを棒グラフで表してございます。

右側の棒グラフが有利子負債の推移でございます。1クォーターでは高止まりしましたが、他の資産の削減等に努めて、有利子負債も削減してございます。

D/Eレシオの目標は1.2でございますが、期末には1.2を達成できると見込んでございます。

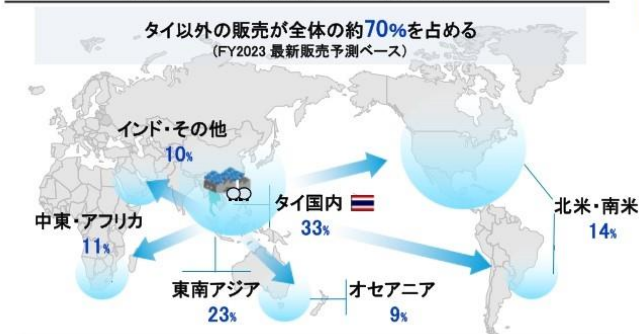
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

タイ(UATH)の状況 ~2023年度3Q 総括

北米・東南アジア缶材需要の落ち込みの影響が続くも、コスト削減施策強化で収益を確保

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



マーケットの状況とUATHの取り組み

- 短期的な需要動向によって販売量が大幅に変動
- グローバルでの需要環境認識は変わらず、中長期的に成長継続見通し
- 新規顧客の開拓を進め、東南アジア以外での販売展開エリア拡大を図る
- ロールマージンの改定による収益の確保
- 中国材との競争に対し、安定供給と高い品質を強みとした競争力を発揮し契約を交渉

© UACJ Corporation. All rights reserved. * 2022年度3QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

3Q総括

需要 : 北米・東南アジアにおける缶材需要の回復時期が遅れる

販売 : 自動車向け熱交換器材は堅調に推移
缶材、エアコンフィンの販売は低調に推移

生産量 : 23千t/月(2023年4~12月)

販売量 : 21千t/月(2023年4~12月)

損益 : (単位:億円)

	22年度3Q累計* (4~12月)	23年度3Q累計 (4~12月)	前年同期比
売上収益	1,468	1,058	△ 410
営業利益	△ 3	2	5
事業利益	31	12	△ 19

11

11 ページ、ここから海外3社の状況をご説明申し上げます。最初がUATHの状況でございます。

右下にPLがございまして、タイは北米向けの缶材の減、および足元タイ国内、東南アジアの需要減で数量的に苦戦、厳しい局面が続いておりますが、コスト削減に努め、利益は確保している状態でございます。

左側の世界地図でございますが、北米・南米向けの比率は下がってございますが、タイ国内、東南アジアおよび隣のインド等はこれから伸びる分野、市場でございますので、こちらへの新規顧客の開拓を進めていく所存でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

米国(TAA)の状況 ~2023年度3Q 総括

品種構成の改善、価格高騰分の転嫁、製造コスト削減により販売数量の減少をカバー

米国缶材需要と国内供給能力の推移



出典：UACJ調査による

© UACJ Corporation. All rights reserved. *1 CAGR：複数の期間に渡る増加率を単位期間あたりの増加率で表したものの、年平均成長率 *2 2022年度3QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

3Q総括

- 缶材需要：顧客での在庫調整は足元ではほぼ解消し、販売数量が徐々に回復していく見通し
- 販売量：35千t/月(2023年4~12月)
※国内・UATH出荷分含む
- 生産能力：約450千t/年体制確立
- 増産対応：北米生産拠点の設備増強は順調に進捗

損益 (単位:億円)

	22年度3Q累計 ^{*2}	23年度3Q累計	前年同期比
売上収益	2,239	1,814	△ 425
営業利益	32	137	105
事業利益	150	206	56

12

12 ページ、TAA の状況でございます。

右下に PL を載せてございますが、事業利益で 206 億円、対前年同期比 56 億円と、大きく増益となっております。

見出しにありますように、品種構成の改善、価格高騰分の転嫁、製造コスト削減等によって、販売数量の減をカバーしてございます。

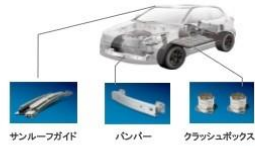
北米の缶材需要の伸びは年率 CAGR で約 3%と、今後も伸びると見てございます。

サポート

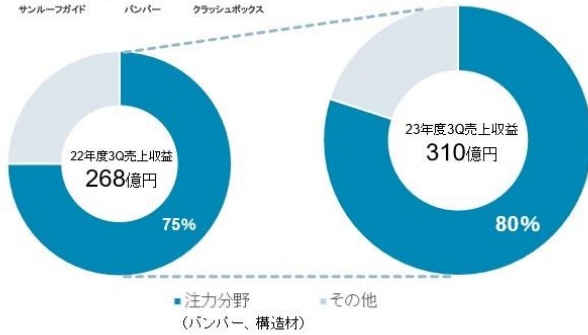
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

北米市場環境の復調およびコストダウン施策の結実により、増収増益傾向が継続

品種構成の推移



UWHが注力する分野の拡販が
確実に進んでいる



© UACJ Corporation. All rights reserved.

* 2022年度3QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

3Q総括

市場環境 : ・北米市場のEV化や軽量化による、自動車部品に採用されるアルミ製品は拡大する予測

販売 : ・顧客でのサプライチェーン問題の解消で販売が増加
・予定数量未達については顧客との交渉によって、価格を改定

損益	(単位:億円)		
	22年度3Q累計*	23年度3Q累計	前年同期比
売上収益	268	310	42
営業利益	△ 13	7	20
事業利益	△ 15	△ 0	15

13 ページが UWH の状況でございます。

UWH は、OEM の生産復調およびアルミ化の進展により、売上収益が拡大を続けてございます。

右下に PL ございますが、売上収益の拡大につれて事業利益も改善してきてございます。3 クォーター累計、残念ながら若干の赤字になりましたが、通年では黒字化と見込んでございます。

以上が第 3 四半期の状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2023年度通期 市場環境

自動車関連分野は、日米ともにお客様の生産回復に伴い、需要の回復が続く一方で、北米・東南アジアの缶材および国内の厚板等は、需要の調整が続いており今後徐々に回復していく見通し

日本	缶材： 飲料用缶材需要は横ばいと見込むも、環境負荷低減ニーズ拡大によるアルミ化を推進 自動車： お客様の生産状況はおおむね回復し、自動車関連は増加見通し 厚板： 半導体製造装置向けの製品は需要調整が続くも、来期にかけ徐々に回復していく見通し
北米	缶材： 中長期的に缶材需要が拡大する見通しに変更はない 短期的には顧客の在庫調整、インフレ抑制等により販売減も、在庫調整はほぼ終了 需要回復は期初想定より遅延 自動車部品： 北米自動車市場は復調傾向。EV化の継続、軽量化の推進で、自動車部品に採用されるアルミニウム製品の拡大化傾向は変化なし
アジア・その他	缶材： 東南アジアのお客様の在庫調整が徐々に解消する見通し インド、中東・アフリカの缶材需要は今後成長が見込まれる

© UACJ Corporation. All rights reserved.

15

続きまして、2023年度業績見通しでございます。

15 ページに、23年度の市場環境について、当社見通しを書いてございます。上期の時点からあまり変わってございません。数量的には苦戦が続いてございますが、1点、北米の缶材につきましては在庫調整がほぼ終了したかと、底打ち感が出てきたと見てございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2023年度 通期業績見通し

販売数量見通しの増加と製造コスト削減施策の結実により、事業利益見通しを上方修正

(単位:億円)	2023年度 (11月時見通し) (A)	2023年度 (最新見通し) (B)	2022年度* (実績) (C)	増減 (B) - (C)
売上収益	8,800	8,800	9,557	△ 757
事業利益	380	400	213	187
棚卸資産影響等	△ 110	△ 130	△ 100	△ 30
営業利益	270	270	113	157
親会社の所有者に帰属する 当期利益	110	110	△ 13	123
事業利益をベースとした 1株あたり当期利益 (円/株)	364	394	119	275
Adjusted EBITDA	750	770	558	212
年間配当	90円/株	90円/株	85円/株	5円/株

©UMCJ Corporation. All rights reserved. * 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

16

16 ページ、通期の業績見通しでございますが、今の底打ち感を受けて販売量の見直しをしまして、事業利益を 380 から 400 億に修正したということでございます。

ただし、足元ではまだ地金の値下がりが続き、棚卸資産影響等が少し増えることで、営業利益につきましては据置きの 270 億円、当期利益も据置きの 110 億円といたします。

Adjusted EBITDA については 770 億円を見込んでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. 2023年度 業績見通し

セグメント別 売上収益・営業利益(最新見通し)

(単位:億円)

	2023年度 (11月時見通し) (A)		2023年度 (最新見通し) (B)		2022年度* (実績) (C)		増減 (B)-(C)	
	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益
アルミ圧延品	7,810	301	7,890	347	8,372	150	△ 482	197
加工品・関連事業	1,810	34	1,820	36	2,071	25	△ 251	11
(調整額)	△ 820	△ 65	△ 910	△ 113	△ 886	△ 62	△ 24	△ 51
合計	8,800	270	8,800	270	9,557	113	△ 757	△ 157

© UACJ Corporation. All rights reserved. * 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

17

17 ページ、セグメントにつきましては、ご参照ください。

2. 2023年度 業績見通し

アルミ板 品種別売上数量(最新見通し)

(単位:千トン)

品 種	2023年度 (5月時見通し) (A)	2023年度 (11月時見通し) (B)	2023年度 (最新見通し) (C)	2022年度* ¹ (実績) (D)	増減 (C)-(D)
缶 材 ²	880	761	777	834	△ 57
箔 地	53	46	45	46	△ 1
I T 材	11	9	8	9	△ 1
自動車材	142	144	145	125	20
厚 板	47	34	34	52	△ 18
その他一般材	203	174	180	227	△ 47
合計	1,336 国内市場向け 510 海外市場向け 826	1,168 国内市場向け 478 海外市場向け 690	1,189 国内市場向け 479 海外市場向け 710	1,293 国内市場向け 475 海外市場向け 818	△ 104 国内市場向け 4 海外市場向け △ 108

© UACJ Corporation. All rights reserved. *¹ 会計期間の変更に伴い、実績値を組み換えています
*² 内部取引控除後の数量

18

18 ページ、最新の数量見通しでございます。

今ご説明申し上げましたように、缶材で若干戻りを見ているのですが、箔地、IT、厚板で低調が続いている状態でございます。自動車材のみ復調している状況であります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

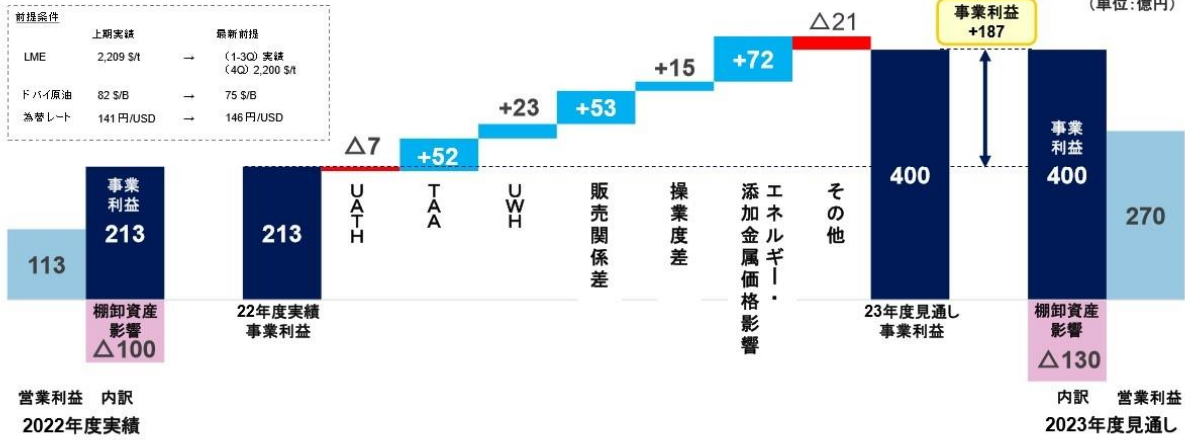


2. 2023年度 業績見通し

事業利益分析 (2022年度 → 2023年度 最新見通し)

事業利益: 213億円 (2022年度*) → 400億円 (2023年度見通し)

(棚卸資産影響額: Δ100億円 (2022年度) → Δ130億円 (2023年度見通し)、前年同期比Δ30億円)



© UACJ Corporation. All rights reserved.

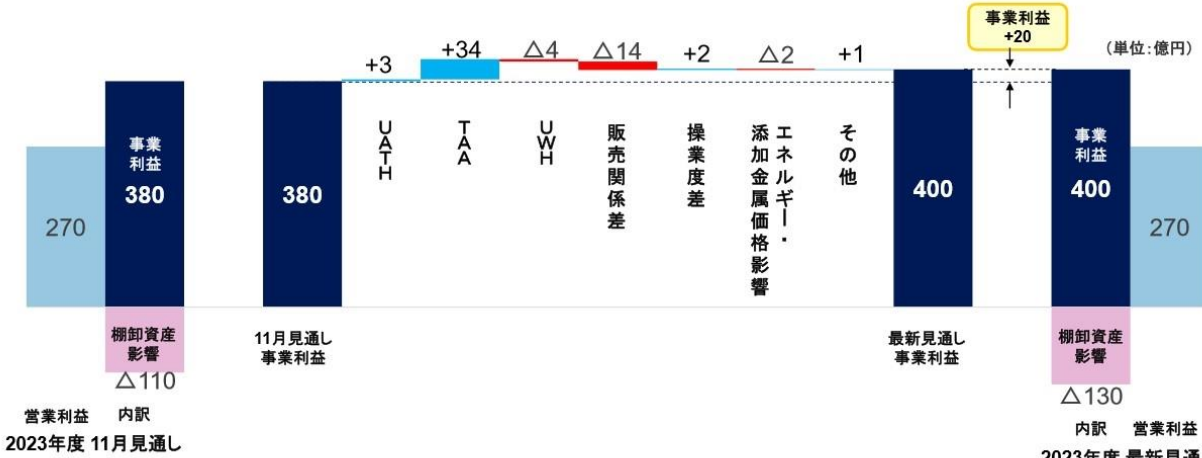
* 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

2. 2023年度 業績見通し

事業利益分析 (2023年11月見通し → 2023年度 最新見通し)

事業利益: 380億円 (2023年11月見通し) → 400億円 (2023年度最新見通し)

(棚卸資産影響額: Δ110億円 (2023年11月見通し) → Δ130億円 (2023年度最新見通し))



© UACJ Corporation. All rights reserved.

損益のご説明、19 ページと 20 ページはご参照ください。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



設備投資・減価償却費

設備投資額は減価償却の範囲内を堅持

(単位:億円)		2021年度 (A)	2022年度 (B)	2023年度 3Q累計	2023年度 見通し (C)	中計期間計 (見通し) (A)+(B)+(C)
設備投資	一般投資	128	210	138	230	568
	戦略投資	79	54	78	140	273
	合計	207	264	216	370	841
減価償却費		340	373	273	370	1083

© UACJ Corporation. All rights reserved.

21

21 ページ、設備投資の状況でございます。

2023 年度は、TAA の設備増強および福井で行う UBC のリサイクル設備等で投資が少し増えてございますが、減価償却の範囲内に収まっています。この中計の3カ年期間中は、減価償却費の8割弱に設備投資を抑えて、財務体質の改善に努めてございます。

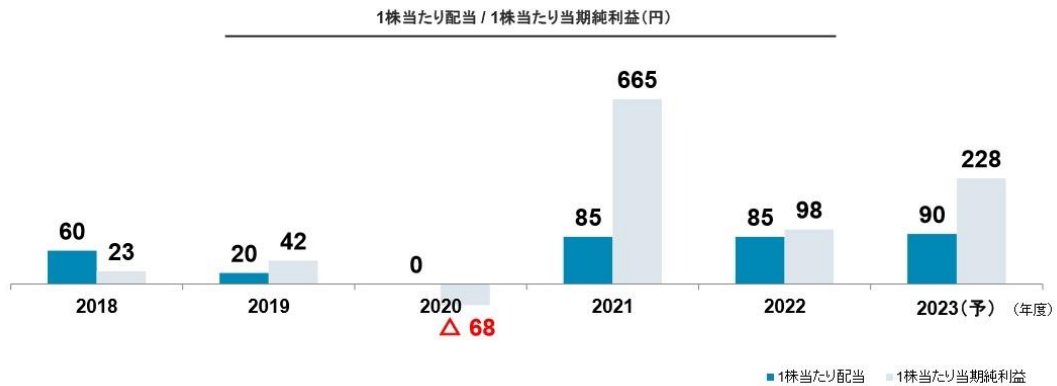
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

株主還元

事業利益の向上により、年間配当は90円に

- 還元方針 : 長期的な総還元性向は30%以上を目標とする
 配当 : 連結配当性向20~30%を目途に、安定的かつ継続的な配当を目指す
 株式価値の向上 : 確実な利益・キャッシュフローの確保、資本市場との対話で価値向上を目指す



©UMCJ Corporation. All rights reserved.

22

22 ページ、株主還元でございます。

上期に発表いたしましたとおり、年間配当は90円に増配しております。これは事業利益の向上に合わせて年間配当を90円としております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

企業価値向上の実現に向けた、資本効率を指標とする経営

2023年度の目標を確実に達成し、VISION2030への道筋をつくる

第3次中期経営計画の財務指標として ROE、ROIC、D/Eレシオを設定

- ⇒ ・2023年度は、第3次中期経営計画最終年度として、確実に財務指標を達成するべく利益を着実に積み上げる施策を実行する。
 ・資本市場との対話を引き続き積極的に実施し、資本市場のニーズを経営に反映する。

長期経営ビジョン UACJ VISION 2030 の財務指標として ROE、ROICを設定

- ① 株主資本コストの引き下げ、② 期待成長率の向上、③ 株主・投資家との積極的なコミュニケーションの継続
 ⇒ 2030年の目標を確実に達成するべく、第4次中期経営計画(5/13公表予定)で具体的な施策を織り込む。

財務指標 KPI

	第3次中計期間						
	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023 ^{*3} (見通し)	FY2030(目標)
ROE	0.6%	1.1%	-1.8%	15.6%	2.0%	4.3%	10.0%
ROIC ^{*1}	2.8%	1.9%	2.2%	11.1%	3.0%	4.5%	10.0%
D/Eレシオ ^{*2}	1.7	1.6	1.6	1.4	1.3	1.2	—

^{*1} ROIC：税引前営業利益を基に算出 ^{*2} D/Eレシオ：劣後ローンの資本性考慮後 ^{*3} FY2023はIFRS基準での算出

© UACJ Corporation. All rights reserved.

24

続きまして3番、企業価値向上に向けた資本効率経営の取り組みでございます。

24ページ、現在の第3次中計から、資本効率を指標とする経営を進めてまいりました。KPIは下の表のところでございますが、ROE、ROIC、D/Eレシオを掲げてございます。

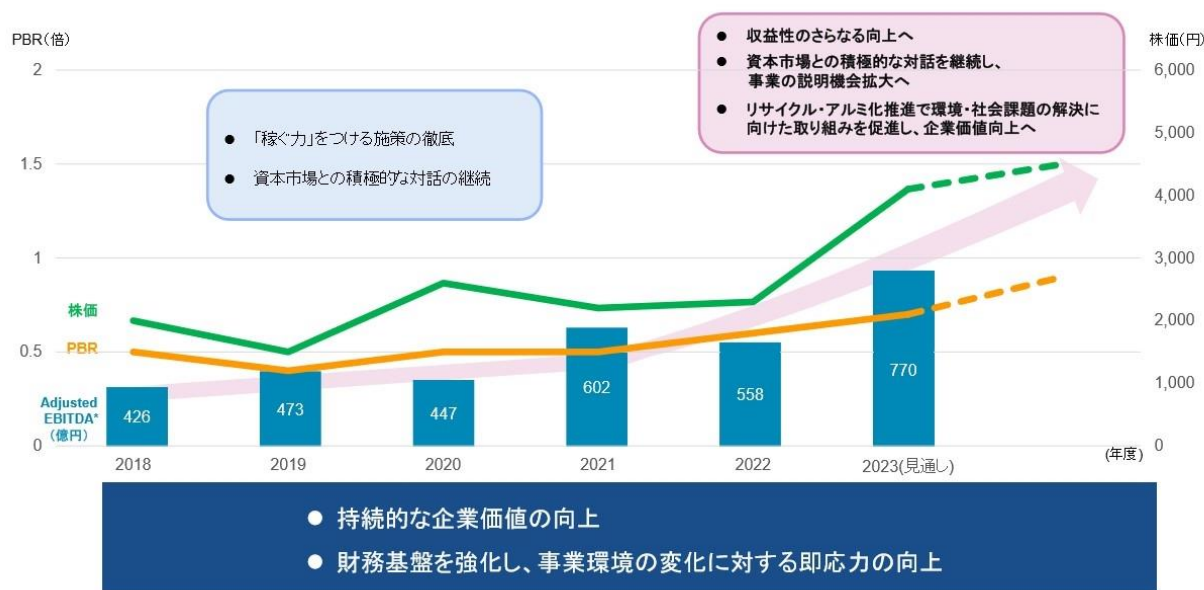
目標とする数値にはまだ道がございますが、この3カ年はその前の3カ年と比べて着実に数値が向上していると考えてございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

3. 企業価値向上に向けた資本効率経営の取り組み

企業価値向上の実現に向けた、資本効率を指標とする経営



© UACJ Corporation. All rights reserved. * 2018～2021年度は日本会計基準、2022年度はIFRSの概算値、2023年度はIFRSでの見通しの値

25

25 ページ、こちらで成果をお示しできると考えてございます。

青い棒グラフが Adjusted EBITDA でございます。過去 3 年の中計期間中と本中計期間中を比べて、稼ぐ力が確実に付いてきたと評価してございます。

また、当社は資本市場との積極的な対話を継続してございます。本日までご参加の皆様のおかげをもちまして、株価および PBR 等もようやく右肩上がりの傾向となつてございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今後さらに収益性を高める、および資本市場との積極的な対応を継続し、さらにリサイクル・アルミ化を推進して、環境問題、社会課題の解決に貢献していき、それをもって企業価値を向上させていきたいと考えてございます。引き続きのご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

企業理念とサステナビリティ基本方針

UACJグループ理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

サステナビリティ基本方針

「100年後の軽やかな世界のために」

4 番、サステナビリティへの取り組みでございます。

27 ページが、企業理念とサステナビリティ基本方針でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

4. サステナビリティへの取り組み

「第8回ドリンク ジャパン」へ参加

外部イベントに参加し、アルミ化の推進・リサイクルの有用性をPR

「第8回ドリンク ジャパン」での講演



「サステナブル実現に向けた容器新時代」のセミナーで講演。
「アルミでかなえる軽やかな世界
～飲料容器の持続可能性への挑戦～」と題し、
飲料バリューチェーンの持続可能性をさらに高めるため、
アルミ缶の有用性、リサイクルによる環境負荷低減効果に言及し
UACJの取り組みを紹介した。

ドリンクジャパン 公式サイト <https://www.drinkjapan.jp/>
© UACJ Corporation. All rights reserved.

次世代飲料蓋「EcoEnd™」



「EcoEnd™」が提案する新しい循環フロー

東洋製罐様と共同開発した新製品「EcoEnd™」は、
環境負荷を低減した次世代の飲料缶蓋であり、
リサイクル原料の使用率を高めることで、GHG排出量を4割削減する。

これからも、「アルミ缶水平リサイクルのさらなる促進」と、
「飲料容器サプライチェーン全体のGHG排出量の削減」を目指し、
活動に取り組んでいく。

28

28 ページは、第 8 回ドリンクジャパンで社長の石原が、アルミ缶の有用性、リサイクルによる環境負荷低減効果につきまして、講演してございます。また併せて、東洋製罐様と共同開発した新製品「EcoEnd™」についてご紹介しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

4. サステナビリティへの取り組み

環境総合展「エコプロ2023」へ参加

環境意識の高い次世代人材に、アルミニウムとその環境価値をPR

環境総合展「エコプロ2023」



- ✓ 小中学生をはじめとする、環境意識の高い次世代人材に、アルミニウムとその環境価値をPR
- ✓ 持続可能な社会に向けた当社の取り組みや、アルミ製品を幅広く展示。
- ✓ アルミニウムの特性を分かりやすく伝えるために、実際に見て触って体感してもらえるコーナーやプレゼンテーションを実施
- ✓ アルミニウムの軽量性や無限にリサイクルできる特性を生かして環境負荷低減に貢献する製品事例、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みや、社会貢献活動などを紹介した。

エコプロ 公式サイト <https://messe.nikkei.co.jp/ep/>

© UACJ Corporation. All rights reserved.

29

29 ページは、環境総合展「エコプロ 2023」に出展したご紹介であります。写真でわかりますとおり、次世代に向けてアルミニウムとその環境価値を PR してございます。

4. サステナビリティへの取り組み

UACJ社歌「つづけ」～日経社歌コンテスト 2024「チームワーク賞」受賞

グループ理念を体現した歌詞・楽曲を社内から公募して制作し、グループの一体感を醸成

つづけ

青も黄色も いろんな色が
混ざるから楽しくて 強くなる
丸や四角や 好きな言葉で
話してもいいんだよ 君はどうだい
変わらぬ力と 変えてく勇気を
心にたずさえ 歩いて行こう
ずっとこの空つづけ いつまでも
子どもたちになを 残せるの
この海つづけ きっとつづけ
あしたの風はいま ここから吹く

作詞／作曲：西野寛和・KOROTAN
編曲：柿崎洋一郎

右か左か 迷ったときは
幸せの意味だけを さがしてみる
西へ東へ がんばっただけ
優しさにもじむはず 虹を見たかい
伝える思いと 伝わる重さを
まっすぐ信じて 挑んでみよう
きっとこの夢つなげ どこまでも
未来なんて今日が つくるのさ
この愛つなげ もっとつなげ
いくつも星がまた 生まれている

Aluminum lightens the world
Aluminum is our passion
ずっとこの空つづけ いつまでも
子どもたちになを 残せるの
この海つづけ きっとつづけ
あしたの風はいま ここから吹く



グループ理念を「歌詞」の形で表現

世界6カ国、150名がダンスに参加

© UACJ Corporation. All rights reserved.

30

30 ページ、これは当社発足 10 周年を記念して社歌を作り、みんなで踊ったというご紹介でございますが、このような活動を通して社員のエンゲージメント向上に努めてございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



25

この社歌につきましては、日経社歌コンテストでチームワーク賞をいただきました。写真に出ているような動画はYouTubeでご覧いただけますので、よろしければご覧ください。

4. サステナビリティへの取り組み

東京ヤクルトスワローズとのトップスポンサー契約で、知名度・ブランド価値を向上

アルミニウムの“ファン”を増やし、人的資本等の強化へ



2024年1月31日新ユニホーム着用写真
(左から山田哲人選手、中村悠平捕手、清水昇投手)

当社は、プロ野球球団東京ヤクルトスワローズと
トップスポンサー契約を結び、
3月29日(金)に開幕する今シーズンから
ホーム試合用ユニホームの右肩に
企業ロゴを掲示することになりました

UACJは今後も引き続き、知名度・ブランド価値の向上に努め、アルミニウムの“ファン”を増やして
人的資本の強化をはじめ、企業価値向上につながるべく広報活動を積極的に展開してまいります。

東京ヤクルトスワローズ様リリース <https://www.yakult-swallows.co.jp/news/detail/29288>
UACJ リリース <https://www.uacj.co.jp/release/20240201.htm>

31

31 ページ、東京ヤクルトスワローズのトップスポンサー契約をしたということですが、これは当社 UACJ の知名度、ブランド価値の向上を目指した活動でございます。

また、当社のみならずアルミニウムについてのファンを増やす活動もしてございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

4. サステナビリティへの取り組み

次世代教育支援の活動事例紹介

対面での次世代教育支援活動を再開し、地域活性化に貢献

環境教育プロジェクト「地球教室」に協賛



朝日新聞社主催の小学生向け環境教育プロジェクト「地球教室」に協賛プロジェクト全体のサポートとして、環境教育用テキストへの編集協力を継続実施しているほか、11月7日(佐渡)と12月14日(津川)に、「地球にやさしいアルミニウム」と題して当社従業員を講師とした出張授業を開催。90%以上と高いリサイクル率を誇るアルミ缶のリサイクルや、軽くて強いという特長を生かして自動車の軽量化に貢献するアルミニウムについて紹介した。

© UACJ Corporation. All rights reserved.

野球教室の開催



2023年11月12日、福井県坂井市にて「UACJ野球教室」を開催。将来を担う子どもたちにスポーツの楽しさや魅力を伝え、スポーツを通じた地域における次世代育成を目指すもので、3回目の開催。当日は、121名の小学生が参加し、当社がオフィシャルスポンサーを務める東京ヤクルトスワローズ所属の中村悠平選手や、東京ヤクルトスワローズOBの内藤尚行さん(通称ギャオス内藤さん)、宇佐美康広さんが指導にあたった。

32

32 ページは、各地で行った次世代教育支援活動のご紹介でございますが、地域活性化にも貢献している活動をしてございます。

サステナビリティへの取り組みのご紹介は以上でございます。

今後のスケジュール

5月13日(月)

2023年度本決算 発表、同説明会 開催(ZOOM開催予定)
第4次中期経営計画 公表

5月28日(火)

IR-Day(第4次中期経営計画説明会) 開催(開催形式未定)

各説明会の詳細につきましては、あらためてご案内を申し上げます

© UACJ Corporation. All rights reserved.

33

最後 33 ページ、今後の予定でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



27

5月13日に本決算発表および中期経営計画の公表、5月28日にIR-Dayで第4次中期経営計画の説明会を予定してございます。ぜひご参加のほど、ご検討をお願いしたいと思います。

資料のご説明は以上です。

上田：当社からのご説明は以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質疑応答

上田 [M]：これより皆様からのご質問をお受けいたします。

それでは最初のご質問者をご紹介します。SMBC 日興証券株式会社、山口様、お願いいたします。

山口 [Q]：通期の計画がありましたら子会社別に教えてください。

差し引くと第4四半期に利益が落ちちゃうんですが、来年に向けてこれは大丈夫でしょうか。第4四半期に利益が落ちる背景を教えてください。TAAが非常に好調な背景はメタルベネフィットも含めてどういうところがあるのかを教えてください。

先日出たクラウンとボールが対照的な決算が出ていて、クラウンは工場を閉じちゃうというところまでいっていますが、どっちかっていうと欧州とかアジアの話で、北米はそんなに悪いことは言ってなかった。

一方で、ボールは利益が上がってきてCAPEXも継続するようなんですが、御社の今の話ですと、少しアメリカは出荷が戻ってきたって話ですが、ちょっとコンフューズしているので、マーケットの全体感3%の増加が続くということですが、クラウンによると、何か、家飲みが終わってしまいブームがいったん去ったので、しばらく冷え込むみたいなことも言っているんですが、ちょっと教えてください。以上です。

飯田 [A]：はい。まず、海外3社の通期見通し、申し上げます。

まずUATH、売上収益は1,449億円、営業利益3億円、事業利益17億円。TAAの通期見込み、売上収益2,394億円、営業利益162億円、事業利益246億円。UWH、売上収益は411億円、営業利益12億円、事業利益5億円を、通期見込んでございます。

4クォーターの損益が若干低くなる件でございますが、まず1月、2月は稼働日が少ないということで、販売、生産とも低調となりますので、まず損益的には悪いクォーターとなります。

それと、12月、1月の長期休暇中に保全を行っています。やはり安定供給を社会的責務と考えてございますので、設備を止めて設備のメンテナンスを行っています。そのときの保全費がどうしても4クォーターに出てくることで、これもだいたい毎年の話ですが、稼働日と保全費用の関係で4クォーターは収益が少し落ち込むと見てございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



TAA の好調背景。12 ページに書いてございますが、まず、数量減でございますが、北米の缶材市場が約 5 万トン弱落ちているのは事実ですが、その分は TAA と日本の輸出と UATH の輸出と、それぞれ負担は少し分散しています。TAA で 5 万トンは減っていないということが、まずございます。

品種構成の改善と書いてございますが、これはエンド材、特にカラーエンド材という、エナジードリンクでお見かけするかと思うんですが、ふたの黒いやつです。その注文がございまして、これは高採算であったということがございます。

それから、価格高騰分の転嫁と書いてございますが、これは日本の板事業で出ていることと同じですが、物価連動分が 1 年遅れて出てくるというスキームでございます。去年コストアップで苦しみました、今年はそれを価格転嫁しているということで、去年と比べますとプラスマイナス、マイナスプラスで大きく好転している状況でございます。

石原 [A]：最後のクラウンとボール社の比較の話がございました。同業のレポートも同時に出ていて、われわれ 3%の伸びを読んでいますけど、同業は 4%で伸びるということを言っております。足元では 1.5 から 2%弱の伸び率がありますが、これは継続していく素材であることをアメリカの同業も言っておりますし、引き続き当社としては 2026 年中に新しいラインを立ち上げて供給能力を増やすということで、米国市場の缶材需要に対応することをうたっております。

隈元 [A]：確かに、クラウンはアジアですとかヨーロッパについては非常に悲観的に見ているところはご指摘のとおりだと思います。それに比べてボールは、トップシェアということもあって、あまりその影響は見えないということかなと思います。

ですので、北米ということになりますと、この過剰在庫の一扫が、多少、製缶メーカー様によって、でこぼこはあるんだろうと思いますけれども、収束に近づいてきたなということかなと。

山口 [Q]：確かに御社の出荷が伸びていますから、そのとおりなんですね。この一過性の価格の転嫁が進んでいるってやつが、もし物価が下がってくると下げて月ずれで減益になっちゃうっていうリスクは大丈夫ですよ、来年度。TAA の話です。

石原 [A]：TAA は基本的に長期で契約している分がほとんどですし、既に 2025 年以降の契約も進んでいますので、大きく影響を受けることは少ないと見えています。

山口 [Q]：ありがとうございました。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



次のご質問は、モルガン・スタンレーMUFG 証券株式会社、白川様です。よろしくお願いいたします。

白川 [Q]：はい。モルガン・スタンレー証券の白川です。本日はありがとうございます。2点よろしくお願いたします。

まず1点目がタイですけれども、統計を見ていると、確かにアメリカ向けはこれまで12月まで弱かったですけれども、タイから東南アジア向けの輸出、これかなり戻ってきて、かなり好調だと思います。なので、この東南アジア向けの状況を、中国の輸入状況を含めて、解説お願いたします。併せて、今回、タイを3億円ほど、先ほどの数字を聞くと、上方修正しているかと思しますので、この上方修正の内容を教えてください。これが1点目になります。

それから2点目が、国内に関しての質問です。半導体製造装置向けの厚板、ここの回復がまだ見えてきていないのかなと思うんですけれども、巷ではかなり半導体製造装置とか、結構上向いてきているかなという感触があるので、今後の回復のタイミング、今、御社がどのように見られているか、ご解説お願いたします。以上2点です。よろしくお願いいたします。

田中 [A]：私からご説明いたします。

ご指摘のとおり、やはり東南アジアエリアについては、まだまだ十分な回復まで至っていません。ただ、直近でいきますと、相当底打ち感が入ってきたかなと思います。

国別でいきますと、東南アジアでもタイ、ベトナムの落ち込みが大きかったですけれども、特にベトナムを中心に底打ち感が非常に強く、徐々に回復してきている形になっています。

一方、中国材の流入という観点について言うと、ここは相変わらずやはり中国のほうからじわっと材料が出てきているというのが足元の実態になっています。ただし、われわれは長期で契約をさせていただいていますので、それを盾に、できるだけ中国材が入ってこない、従来から契約しているお客様にきちっとお届けできるように、進めているのが足元の状況になってございます。

石原 [A]：中国を含めて、大変、価格的には下がる傾向にありますけど、今、田中が申しましたように、私ども UATH の強みは納期と安定供給、品質の継続性にありますので、お客様が既にご契約いただいているところで十分にメリットを感じていらっしゃるから、今後ともそれは継続してお使いいただけるということだと思っております。

国内の厚板については、半導体製造装置の需要が少し、まだまだ復活しておりませんが、半導体を作る工場は日本国のみならず各地で進んでいまして、いずれ半導体製造装置の需要は回復すると見込んでおりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



今年度 23 年度中の下期に回復をするという大半のお客様の見込みで、われわれの素材はその前、上期中の後半に出てくると見込んでおります。

白川 [Q]：ありがとうございます。1 点目の、タイの上方修正の要因はいかがでしょうか。

飯田 [A]：エネルギー単価の低下を見込んでございます。

白川 [M]：わかりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。それでは次のご質問は、野村証券株式会社、松本様、よろしくお願いいたします。

松本 [Q]：野村証券の松本でございます。よろしくお願いいたします。

20 ページの資料を見て質問させていただきます。この販売関係差の 14 億円のマイナスというのは、どういう要因でしょうか。数量とかロールマージンとか、もし内訳があれば教えてください。

それから、TAA の上方修正は、基本、最初のほうで数量が戻ってきているようなお話だったような気がするんですけど、ここももうちょっと内訳を教えてくださいたいのと、あと、10-12 月期であまり数量は戻っている感じはちょっとしないので、これは 1 月以降少し変わるようにご覧になっているのか、教えてください。以上です。

飯田 [A]：20 ページの販売関係につきましては、需要調整がやはり思っていたよりは続いているということで、少し悪化で見てください。これは国内の需要でございます。

TAA につきましては、缶材の増と申しますか、そこまで落ちないという見込みを改めてしたということございまして、底打ち感で一定の歯止めがかかった分がプラスに効いているということです。

松本 [Q]：これは 1-3 月でということですね。

飯田 [A]：はい。

松本 [M]：わかりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。それでは次のご質問は、大和証券株式会社、尾崎様です。ご質問をお願いいたします。

尾崎 [Q]：大和証券の尾崎でございます。よろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2点ありまして、1つ目がTAAに関してなんですけれども。ご説明の中では、今年は去年のエネルギーコストの高騰を受けて販売価格が上がっているというお話がありましたが、今年の燃料コストが下がっているんで、来年の販売単価が下がって少しスプレッドが縮小をしないかどうかというのを、改めて確認をさせてください。先ほどのご回答だと、25年までの契約があるので大丈夫みたいなお話もあったんですが、その辺りをもう少し詳細に確認をさせていただければと思います。

2点目が、20ページ目のところのUWHですね。この下方修正の背景を教えてください。以上2点です。

石原 [M]：はい。まず1点目のTAAのエネルギーコストについての変動分、これが次年度どうなるかっていうところは。

飯田 [A]：これは翌年度の販価に効きますので、もし下がっていけば下がるということですが、コストが合わせて追隨して下がってございますので、ニュートラルと考えております。

UWHの4億悪化させたのは、販売で内示との差がある部分があり、販売分としてはちょっと悪化させてございます。

石原 [A]：1点目のTAAのエネルギーコスト、これは販売価格に転嫁して、販売価格というか、売上は減りますけれど、それに合わせて、エネルギーを使って製造している会社としての製造コストが下がりますので、そこはニュートラルという説明を申し上げました。

20ページ目の話は、今の数量減ということですね。

尾崎 [Q]：TAAですけど、来年度に向けては販売価格が少し下がるという中で、エネルギーコストも下がっていくだろうという、そういう見通しを持っておられるということですか。

石原 [A]：そうですね、基本的に燃料を買うときの値段が下がりますので、使った分の燃料の原単位が変わらなくても製造コストは下がるという、そういう意味です。

尾崎 [Q]：今、私が質問させていただいているのは、来年の販売価格は今年の燃料コストが下がった分だけ下がることは確定をしていると。燃料コストは来年どうなるかわからない部分が残っているという部分はないでしょうかということですが、そこはいかがですか。

石原 [A]：これは時期がずれるだけという考え方をわれわれは持っております。いずれニュートラルになります。LMEと一緒にですね。どこかでバランスするということです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

尾崎 [Q]：わかりました。それが今年はちょっとメリットに出ているんじゃないかというのが、さっきの山口さんとかからの質問の流れだと思うんですけど、そこは今年はメリットが出ているという理解でよろしいんですか。

石原 [A]：そのとおりです。

尾崎 [M]：はい、わかりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。次のご質問は、UBS 証券株式会社、五老様です。ご質問をお願いします。

五老 [Q]：UBS 証券の五老です。よろしくお願ひいたします。19 ページの損益分析のところを見ながらの質問になるんですけども。

今回中計の中で総じて損益分岐点の引下げ、従来から取り組まれてきて、固定費の抑制をやってこられたと思うんですけども、成果として操業差、販売関係差、今期のような数量でもこちらが前年比ではプラスに出る形で成果が上がってきているという理解です。

今後、先ほどのご説明からいたしますと、北米だったりタイだったり、日本国内についてもそうだと思うんですが、数量的に在庫調整を終えた部分から徐々に戻っていく方向感というのが 24、25 年に向けて期待できるのかなと思うんですけども、この過程で改善した限界利益率というか、この操業度差の効果を数量が増えるなりに今度はしっかり掛け算して増益要因として期待できるのかというお話、確認できたかというところでは。

販売関係差と操業差と、意味合いもやや微妙なところもあるんですけども、その部分をうまく解説いただいて、今後の数量効果の刈取りを限界利益率を悪化させずにうまく取り込める余地があるんだろうかと。先ほどの尾崎さんのご質問も絡んでくるかもしれませんが、マージンを確保しつつそういった形で成果が出せるのであれば、その辺り、見方を教えてくださいというのが 1 点目です。

2 点目については、先ほど来、リサイクル関連、サステナビリティの取り組みの中で従来からご説明に力を入れていられている部分かと思ひます。次の中計でも、UACJ SMART でしたりマスバランスでしたり、新しい手法でもってブランディングしたものの量も出てくるかと思うんです。

すいません、ちょっとややこれは勇み足なので、いつもそういう質問ですけども、これについてはある程度、例えば数量割合が示せるような段階に次の中計期間中には至るようなお話になりうるんでしょうか。まだコンセプトとして動き出しているということは承知しているんですけども、

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



一方で需要家さんの動きも意外に早かったりするのかなという気もしますので、この辺りについて何か定量的な目標になりうる状況と考えてらっしゃるか、これについて教えてください。

すいません、以上2点よろしく申し上げます。

飯田 [A]：今だいたいお話いただいたとおりの内容でございますが、19ページの販売関係差、こちらはほとんど価格改定の効果でございます、数量の影響はむしろマイナスで入っているということでもあります。にもかかわらず操業度差がプラスというのは、おっしゃっているとおり、コストが下がっている、それにつれて限界利益率が上がっているということでございます。今後、数量が回復してきますと操業度差のプラスがさらに見込めると理解しております。

石原 [A]：19ページ目で、特に販売関係差であったりエネルギー転嫁のところで好転が大きいのは、時期のずれもあるんですけども、上期でエネルギーサーチャージの確定がほぼできていて、それが上下で効果として販売関係差あるいはエネルギー・添加金属の影響として出ているんですね。

下期はロールマージンの改定分の契約がなくて、それが効果として3、4クォーターで出始めているところに時期ずれの要因がありまして、どちらかというそれは販売関係差のほうに乗っかっていると理解していただけるといいです。

いずれにしても、24年度、ここは今のエネルギーサーチャージ、そしてロールマージンの改定分はいずれも、特にロールマージン改定分はそのまま残りますので、ここは販売関係差として確保できると、いわゆるその限界利益率の部分は一定量を確保できると見ていただいてもいいと思います。

あとはリサイクル関係について、もう少し数量を含めて次中計で何か出てくるのかなというご質問です。田中さん、いかがですか。

田中 [A]：まず、リサイクルあるいはCO₂の低減に関しては、ご指摘のとおり、UACJ SMARTであったりUACJ SMART マスバランス等を発表し、実際にお客様からもいろいろな引合いをいただいているところです。

一方、また、そういったブランドに併せて、「ALmitas+」という新しいブランドも発表させていただきます。ここは幾つかブランドがばらばらと出てきている感じになっていきますので、この点については近々、UACJのそういったブランドの再構築をした形で、こういった商品のラインナップがありますよ、ブランドがありますよ、という形で、またご紹介させていただきたいと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

そういった中であって、リサイクル関連とか、あるいは CO₂ の削減関連でボリューム感がということですが、今われわれの腹案としては、だいたいこういうものでこういった形にしたいなというものがありますが、まずはこの中計の中で一つ一つブランドを構築していく中で、そのブランドに合わせた格好での作戦を練っていきたいなと考えています。

次の中計の中ではその辺の数量が固まってくるだろうと考えています。

石原 [A]：今の田中が申したとおりですが、私ども 2030 年に向けて幾らぐらいの感覚で新領域に金額的な数字を作るかということで、今 8,000 億の中の伸び率の 2,000 億円の中身の半分ぐらいを新規領域のところでとお話をしているかと思えます。

ここはブランド価値を上げて、特にリサイクル性を追求したブランド価値を上げて、新しいニーズを掘り起こして、それを 1 カ所に何か商品として出るというよりも、さまざまなアルミ製品の領域の中にリサイクルに関わる付加価値が乗っかってきますので、トータルでのお示しでしかできないかもしれませんね。そこは少し、魅力的な発信ができるように考えていきたいと思っております。乞うご期待というところで、よろしく申し上げます。

五老 [M]：大変よくわかりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございます。

では、次のご質問は、SBI 証券、柴田様、よろしくお願いたします。

柴田 [Q]：お世話になっています。柴田と申します。せっくなので、1 個だけちょっと教えてください。ちょっと答えがないかもしれないんですけども、キャッシュの考え方でございます。

今後また中計が出てくることは重々承知ですけれども、例えば 21 ページ目のように、ここ 3 年間は CAPEX と減価償却のバランスを取ってきたりとか、あと他だと、例えば 9 ページ目だと棚卸資産の在庫圧縮とか、そういったキャッシュを意識した経営にシフトしてきたと思うんですけども、今後また数量が伸びてくる過程においてどういった規律付けをもって、これまで良くしてきた財務の健全性を維持していくとか、そこについても何かコメントがあったら、お考えを教えてくださいませんか。

川島 [A]：ありがとうございます。私から、中計も含めて概略を説明させていただきます。

確かに、財務状況について想定はしてきていますけれども、まだまだ不十分だというふうに自分たちは認識をしております。先ほど申しましたように、D/E レシオはまだ 1.2 でございますので、そこをもう少し早めに良くすることを考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



従って、設備投資につきましては、確かに3カ年計画、第3次中計では、減価償却の80%弱にしたんですけれども、それは元々2014年、2015年から、大型投資をしていました。それが稼動するので、設備投資を第2次中計、第1次中計のときに使っているんで、その修正という形で考えていただければいいかと思っています。

従って、今後、同じように減らしてくかという、アルミニウムのマーケット、これは今、拡大マーケットです。そこに対応しようと考えていますけれども、他方で、今までのように能力を大幅に増加するという投資は必要じゃないと思っていますので、やはり自分たちの財務を強化するという方針は曲げずに設備投資をする。それから、売上収益も増えることによって運転資金は増えるかもしれない。増えるでしょうけれども、他方で、当社としては社内でキャッシュコンバージョンサイクルという指標で運転資金をセーブすることもやっています。

従って、売上高が増えても運転資金をできるだけ減らさずに維持し、結果としてEBITDAを増やし、その結果としてD/Eレシオを良くするという形の方針は変えずに、次の中計、さらにその次の中計も含めて対応していくという方針で考えております。以上です。

柴田[M]：大変よくわかりました。ありがとうございました。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。

それでは、質疑応答を終了させていただきます。今後のお問い合わせにつきましては、IR部までお願いいたします。

以上をもちまして、株式会社UACJ、2023年度第3四半期決算説明会を終了いたします。本日はご参加いただき、ありがとうございました。今後も株主をはじめとするステークホルダーの皆様の期待に沿えるよう邁進してまいりますので、引き続き弊社をご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございました。

話者 [M]：どうもありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

